

人間革命 隠遁そして学究生活へ

最近 読んだ記事に深く共鳴を覚えました。東洋経済電子版 首相が 42 歳の英国に程遠い「おじさん日本」の絶望「人生 100 年時代」を言い訳にせず世代交代を はまさに目から鱗での境地でした。10 月 25 日 英国首相に新たに就任されたリシ・スナク氏は 42 歳です。初のインド系でもあり精悍でスタイルもよくオックスフォード大 スタンフォード大を卒業したエリートそのものです。ゴールドマン・サックスのアナリストとして活躍。経済金融の政策通であることは言うまでもありません。史上 3 人目の女性首相だったリス・トラス氏の後任として選ばれました。首相交代が頻繁という脆弱さはあるものの一国のトップが斬新なことは刺激的です。「若さ」「多様性(多民族)」「ジェンダー性」「国際人」日本のオッサン政治家たちとは知性 センス 清潔感 品格どれをとっても英国が上という印象です。先日 シンガポールに滞在しましたが常に街の表示は 3 カ国語か 4 カ国語 多民族都市国家としての人種の坩堝(るつぼ)も羨ましく画期的(活氣的)都市の雰囲気でした。将来的には住みたい街になりました。翻って我が日本を見渡すとおじさんばかりです。先の記事の筆者武居氏によると日本では企業社内の重要会議はもとより、財界の会議 政府の審議会とどれも出席者はおじさんとのことです。アメリカやイギリス、中国や東南アジア諸国ではすでに社員や管理職の半数が女性とのこと。面談した政府高官や大企業幹部が女性という場合もまったく珍しいことではないそうです。そして男性であっても高官や幹部は若い人が多いというのです。おじさん文化の特徴とは上下関係を重視し、部下に服従を求める。過去の成功体験にしがみつき、自分のわかることしか許容しない。同調を求め、異分子を排除する。群れることが好きで理屈より根回しや人間関係を重視することにあるようです。戦後の復興期にがむしゃらに働いた時代はよかつたかもしれないものの今や時代錯誤も甚だしい限りです。スイス IMD(国際経営開発研究所)の調査によるとデジタル競争力ランキングで「企業経営の俊敏性」「国際経験」「ビッグデータの分析・活用」「海外人材の受け入れ」「デジタル・スキル」といずれも最下位ラインに甘じているのが日本とのことです。日本経済の衰退にはこうしたおじさんたちのわがままが根底にあり DX(デジタルトランス

フォーメーション)の推進にはこのおじさんたちを「意思決定の中核」から駆逐することしかないそうです。企業には「ポストオブ制度」というものがあるそうです。ある年齢で組織の部長などから外れる制度。今は「55歳」が主流 今後はこれを「50歳」とすること。社長や会長も「65歳」で引退してもらうことなんだそうです。「日米財界人会議」も日本側トップの平均が60歳代後半であるのに対してアメリカ側は50歳代が中心だそうです。そのためアメリカ側は代理出席ばかりになってしまったそうです。筆者の武居氏はそもそもおじさん文化を助長させた背景の一つに従順な部下の存在を指摘します。30~40歳代の方は社会のことも会社のことも世の中の先端の動きも理解して、上のおじさんたちをどんどん突き上げていかないといけないと言います。おじさんたちから忌み嫌われても感情的反発があっても果敢に自己研鑽を積み上げておじさんたちを凌駕していくことが若者に課せられた使命であると指摘します。今の日本にもっとも必要なことは社会全体が待ったなしの危機意識を持ち背水の陣で臨むこと。それには「おじさん文化」の打破は至上命題なんだそうです。それなくして日本経済の復興なしとまで筆者は訴えます。私も同感です。おじさんたちは過去にしがみつくとなく自分たちの負の遺産を自覚すること。間違った価値観、固定観念を若者に押し付けてはいけません。次世代に早めにバトンを渡して後方支援に回ること。そして次世代は自立して挑戦するという特権を手に入れたらがむしゃらに働くことです。この一点に尽きるそうです。極めて的をいた論調かと思いました。私は今 第二の人生を自分なりに歩み始めました。4月から司法試験のための予備校に入学しました。体調を崩して一旦挫折をし再起をかけて仕切り直しております。超多忙のお盆月を終えたあとは通院、先月は入院加療の時期を過ごしました。そして人生観も変わりました。おかげさまで当院の業績はかつてない大盛況ぶりです。土業の人事改造も功を奏し収益の大幅アップと労務管理の充実化がなされています。弁護士も公認会計士、税理士 社会保険労務士、行政書士等 一年ごとの見直しは必要です。今の顧問先は優秀な人が多く寺院の活性化に多大な貢献をしてくれております。有能であることと経営者側の立場にあること。私の方針に賛同していることが絶対条件です。これは檀信徒にも言えます。私に対して異議を唱えている人は基本的にはいません。敬意を表している人だけでもう充分です。これからはもう年賀状の返信はしません。名簿も最小限に整理しま

す。基本的には電話に出ません。急用時のみ。そしてできるだけ研究時間をつくりまします。冠婚葬祭や法事の付き合い等もしないと思います。僧侶の会議や会合にも出ません。講演も受けません。60歳還暦を過ぎたら会社(職場)を定年退職70歳を過ぎてからはコミュニティ(共同体)から一線を引くこと。末席で大人しくしていればよいと思います。80歳を過ぎたら社会からの引退勧告が私の持論です。個人差があるため人による面はありますが亡き母は80歳を過ぎてからは頭脳明晰ではなくなっていました。私は高齢者とはよほどの人としか今後は接触はしていかないと。限られた時間を大切にします。かの田原総一郎氏も今や老害化してまったく頭脳明晰ではなくなっていました。我が曹洞宗も高齢化しております。私の持論は所長40歳代 総長・本山監院50歳代 管長・貫首が60歳代になれば宗門は変わると。ただ有能な人はアウトサイダーになってしまいます。かの南直哉氏は宗門には興味はなく出世欲もまったくないと。一般信者に仏法を伝え多くの南ファン・信奉者はいます。宗門ではなく世の人たちに我が仏法を問う高い評価を得て。これが本来のかたちです。私は宗門の長老たちから教わることなど何もしません。私も宗派や地域には馴染めなかつたのでいずれは僧籍を返上し移住(海外も含む)も考えて。今年からはその準備も同時進行させていきたい。宗門という狭い世間で生きていてもしょうがない。ラジオ番組に出演されている若手僧侶もあまり優秀で将来を嘱望できそうな人はほとんどいない。以前のほうが面白かったです。松本紹圭さんという有能なパーソナリティには役不足な人たちです。最近では鶴飼秀徳さんがかなりよかったです。僧侶の魅力がないためにおそらく月刊住職も中外日報も仏教タイムスも文化時報も面白味にかけらなく。そこそこの記事が書けているのはせいぜい小川寛大さんの宗教問題ぐらいです。築地本願寺改革を実行された安永雄玄さんも実行力はあると思いますが他寺院のパクリだけで独自のものは何もしません。宗派としてはおそらく浄土真宗系と臨済宗系がもっとも早く教団としては厳しい立ち位置になるのではないかと。くわしくは後日を期します。宗門でいえば私は僧堂修行期間は半年でよいのではという気が。あとは海外留学がよい。僧堂修行をしても人格が磨かれたり教養が身につくことは常識的にはありません。むしろ難癖をつけることを身につけてしまう

人がいます。今の私は改革が一段落し入院生活も終わりとても幸せな日々です。修行も勉強も仕事も充実をしております。漸く夢か叶った日々です。これから第二の人生に向けて環境を変え取り替えられるものはすべて変えていきます。今月は大学や専門学校で講義があり終わってリクルーティング(求人募集)です。出来れば20歳代から30歳代前半を対象にしていきたいと思っております。これからのお寺は拝み屋さんから不動産屋さんにならざるを得ません。なぜならお布施収入が激減しているからです。信徒数が急増している当院でも実はお布施収入は伸び悩んでおります。葬儀・法事をしてくれる時代ではないのです。当院の収入源は多岐に渡りますが墓地墓石 樹木葬 納骨堂 永代供養塔 収入がかなり大きいです。そのためITテクノロジーを駆使できる若いエンジニアも欲しいところです。それにより世代交代も徐々に進めてまいります。今年に入り資材や人件費の高騰で建築費用は莫大です。業者も厳選に厳選をする必要性もあります。技術があり適正価格 誠実という事業者はほんの僅かです。相当の工夫をしない限り寺院の維持などとてもできる時代ではありません。当院ではできるだけ管財部の職員がほとんどの大工仕事をするため経費を抑えられています。今後はものづくり大学からの採用も検討中です。生き残りのための切磋琢磨の戦いはまだまだ続きます。宗教家にも闘争心は私は必要だと思います。世の中の人以上の苦勞と向学心 勤勞欲は絶対に不可欠です。今後とも皆さま方のご指導ご鞭撻のほど伏しお願い申し上げます。

[参考文献] 首相 42歳の英国に程遠い「おじさん日本」の絶望

<https://toyokeizai.net/articles/-/629639>

合掌

令和4年11月11日

見性院住職